

## 第 13 回 後置詞

教科書の該当ページ：99 ページ、102 ページ、111 ページ、136 ページ、204～205 ページ

**後置詞** → 教科書第 10 課②

後置詞は主に位置関係を表わします。フィンランド語では場所格を使って位置関係を表わしますが、後置詞はそれを補う働きをしています。英語の前置詞と逆に、名詞句は後置詞の前に置かれます。後置詞には、場所格と同じように、「～に」「～へ」「～から」で組になっているものがたくさんあります。後置詞の前に置かれる名詞句は、多くの場合、属格になりますが、**pitkin**「～に沿って」のように、名詞句が分格形になるものもあります。なお、**pitkin** は前置詞としても使えます。

例) 家の前に **talon**(単数属格) edessä  
家の前へ **talon**(単数属格) eteen  
家の前から **talon**(単数属格) edestä

**疑問代名詞** → 教科書第 11 課④、第 13 課④

疑問代名詞 **mikä**「何」は次のように変化します。主格以外は単数も複数も同じ形になります。

単数主格	<b>mikä</b>	単数属格	<b>minkä</b>	単数分格	<b>mitä</b>
単数{中で}格	<b>missä</b>	単数{中へ}格	<b>mihin</b>	単数{中から}格	<b>mistä</b>
単数{所で}格	<b>millä</b>	単数{所へ}格	<b>mille</b>	単数{所から}格	<b>miltä</b>
複数主格	<b>mitkä</b>				

{中で}格 **missä**、{中へ}格 **mihin**、{中から}格 **mistä** は、場所を尋ねる時に使います。また、「何」が目的語になる場合、答えとして想定される名詞によって、次のような使い分けがあります。

可算名詞の単数 単数属格 **minkä** (ただし、不定人称受動文や義務を表わす構文では **mikä**)  
可算名詞の複数 複数分格 **mitä**  
不可算名詞 単数分格 **mitä**

**人称代名詞** → 教科書第 10 課⑤

人称代名詞には、他の名詞にはない対格形があります。教科書 102 ページを参照してください。

**指示代名詞** → 教科書第 18 課②

指示代名詞の変化は一部不規則です。特に、**se**「それ」の{中で}格、{中へ}格、{中から}格に注意してください。語頭の **t** または **s** を **n** に置き換えると複数形になります。教科書 204 ページを参照してください。